

午後から大雨の降ったある日、傘が無くなっちゃったと泣きべその生徒に手持ちの傘を渡したとき、ふと思い出した本がありました。徳仁親王『テムズとともに 英国の二年間』(288ナ)は、天皇陛下が皇太子さまだった頃の、英国での留学生生活を綴った本です。ある日、図書館で調査を終えて出てきたところ、買ったばかりの傘が無くなってしまい、強い雨の中ずぶ濡れになって帰った、でも「誰かが濡れずに帰ったのだと思えば、まあそれなりの貢献をしたことにもなろう」と思われたというエピソードが書かれていました。この本には若き日の陛下が遠い英国の地で勉学に励む姿が描かれています。文面からにじみ出るあたたかいお人柄に感銘を受け、自分も明日からこうありたい、という思いが湧いてきます。

司書

📖 Y校関係者の本 ① 📖

書道科のN先生が前任の南高校で、ある本の出版に大きくかかわっていたと聞き、メッセージを寄せていただきました。

○佐藤いつ子「わたしのbe〜書きたび、生まれる」KADOKAWA (913.6サ)

「高校デビュー」をしたい中高一貫校に在籍する主人公の文香が、高校から入学してきたイケメン男子に憧れたところ、まさかの書道部で一緒になり、書道部の活動を通して様々な経験をし、互いに成長する……という読みやすい小説です。いかにも展開が読めそうな感じですよ。しかし、この小説の本当の展開を想像できる人は少ないかも知れません。そこが小説家の腕の見せ所なのだと思います。

この小説の舞台は書道部……皆さんには馴染みのない世界かも知れませんね。実は、その書道部という舞台を描くために作者の佐藤いつ子さんが書道部の取材に来たのが、私が今年の3月までいた、南高・南高附属中学校の書道部でした。

取材をされた側としてこの小説を読んでみると、小説というのは基本的にフィクションではありますが、(取材された側にしか分からないところですが……)フィクションな部分とノンフィクションな部分が巧みに入り乱れ、その現実感と非現実感を楽しみながら読むことができました。

小説では、書道部の顧問の先生は女性ですが、部員に対してアドバイスする内容は割と自分自身が部員に伝えてきた内容が織り交ぜられているので、個人的にはその内容に共感……って取材元ですから当たり前ですよ。笑。

他にも、部員が制作する作品のエピソードの一つは、私が自分自身の作品を書くために、大好きなサザンオールスターズの「桜、ひらり」という曲の歌詞に出てくる、「柳暗花明」という言葉の出典となった中国の南宋の詩人・陸游の「遊山西村」の漢詩を書いたという経験を取材の時に語ったことが反映されています。

ちなみに、イケメン男子の佑京クンのモデルになった生徒も南高の書道部員です。本人を知っている者とするそれは少し微妙……と感じるのも面白いです。

妙に現実感があるところと、そうでない部分を楽しみながら私は読むことができましたが、皆さんは高校の書道部の青春物語として読んでみると、そこに隠されたテーマが見えてくる体験ができると思います。ぜひ、時間のある時に読んでみてください。1時間から1時間半くらいで読めると思います。

Y校でも小説のような舞台に書道部は展開しますよ！今からの入部もウェルカムです！お待ちしております。



☐ Y校関係者の本 ② ☐

いまや世界中で活躍しているY校の卒業生のおひとり、白居優さんから、ご自身の経験をもとに書かれた『儲かる！訪問看護ステーション 成功マニュアル』株式会社ビジネス社（369 ウ）を寄贈していただきました。儲け話はY校生の大好物だと思いますが、ただ儲けを求めるだけでなく「社会に貢献する活動をしながら利益を生み出す」という仕組みがわかりやすく書かれています。今年の3月にはYBCの現2、3年生に思いを直接語っていただきました。その話を聞いた生徒は、壮絶な闘病生活からの起業の話や、人生詰んだと思ったときに卓球部だった仲間たちが力になってくれた話を聞いてグッと来た、と言っていました。人材募集や地域との連携の大切さなど、看護の世界だけでなく起業に興味のある方にも手に取ってほしい本です。



☐ 理系の本 —Y校だけど— ☐

ある日、理科のY先生が、藤原定家の『明月記』を探しに図書館を訪れました。百人一首の「来ぬ人をまつほの浦の夕なぎに焼くや藻塩の身もこがれつつ」の作者、藤原定家が56年間書き綴った日記には、「かに星雲」を生んだ超新星爆発に関する記述など、天体現象についての記録が残されているそうです。あいにくY校図書館に所蔵がなく、お住まいの近くの図書館でお借りいただいたものの、どうにも気になり、所蔵にいたりました。堀田善衛『定家明月記私抄』（915 ホ文庫）、そして村井康彦『藤原定家「明月記」の世界』（911 ム新書）は、難しいと思われがち『明月記』が少し身近に感じられるようなガイドブックです。他にも楽しい理系のおすすめ本をたくさん並べました。棚をのぞいてみてください。

○寄藤 文平『元素生活 完全版』（431 ヨ）

元素といえば、「すいへいりーべはくのふね……」と覚えた記憶しかありませんが、118個の元素をそれぞれキャラ付けして特徴をデータ化し、面白いイラストで元素が記憶に残りやすくなっています。

○アンディ・ウィアー『プロジェクト・ヘイルメアリー（上・下）』（933 ウ文庫）

子どもの頃は、自分が大人になった時にはもう宇宙に人が住んでいる世界になっているだろうと思っていました。現実はどうやく月の裏にたどり着いたところ。でもフィクションの世界なら遥か宇宙にも世界が広がっています。生物、化学、物理、地学、全ての知識が総動員されて進む話は完全に文系の私でも楽しめたので、理系の人にはたまらないはず。映画化もされていて、今ならまだどこかの映画館で楽しめるかもしれません。

○グレゴリー・J・グバー『透明マントの作り方』（425 グ）

○渡邊克晃『美しすぎる地学事典』（450 ワ）

○冲方丁『天地明察』（913.6 ウ）

○荒木健太郎『すごすぎる天気図鑑』（451 ア）

○佐藤勝彦監修『科学者18人にお尋ねします。宇宙には、だれかいますか？』（440 サ）

○佐巻健男『面白くて眠れなくなる物理』（420 サ）

○東野圭吾『容疑者Xの献身』（913.6 ヒ文庫）

○横山明日希『愛×数学×短歌』（911 ヨ）

○レナルト・ニルソン『A Child is Born』（491 ニ）

○佐藤雅彦『解きたくなる数学』（410 サ）

○NHK恐竜プロジェクト『恐竜vs哺乳類 1億5千万年の戦い』（457 キ）

□ 今月のおすすめ本 □

○『幸運を呼ぶ図鑑』(387 ペ)

テスト前までの図書館前のサイネージの画面には、2学年主任の先生の熱い思いが自ら撮影した虹の写真を背景に流れていて、見るたびに前向きな気持ちになりました。

『幸運を呼ぶ図鑑』の最初のページにも「何気なく開いたそのページに、雨上がりの虹のような素敵な出会いがありますように。」という言葉がありました。開いてみたページにあったのは「フクロウ(梟)」で「力のある人より、知恵のある人のほうが、強い。」と書いてありました。

この本には、古くから世界中で信じられてきた「幸運を呼ぶもの」が集められています。四葉のクローバーや招き猫などの幸運を呼ぶアイテム、水晶やラピスラズリなどの鉱石、テントウムシやスズランなどの動植物、流れ星やだるま朝日などの自然現象、などよく知っているものから不思議なおまじないまで、いろいろな「幸運を呼ぶもの」がちりばめられています。ところどころに幸運を呼ぶ名言がちりばめられていて、見ていただけでご利益がありそうな気がしてきます。「ひとはひとをよろこばせることが一番うれしい」という、やなせたかしのことばに納得して本を静かに閉じました。

～図書委員会からのお知らせ～

みんな、本の虫になって、たくさん本を読もう！

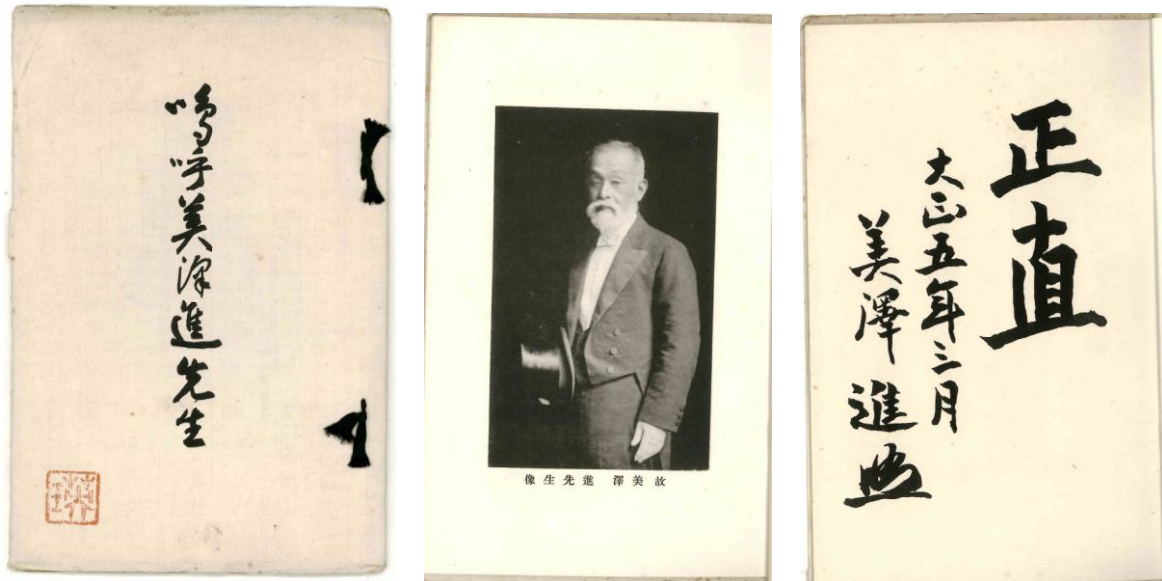


今年度のスローガンは「本の虫、大増殖！」

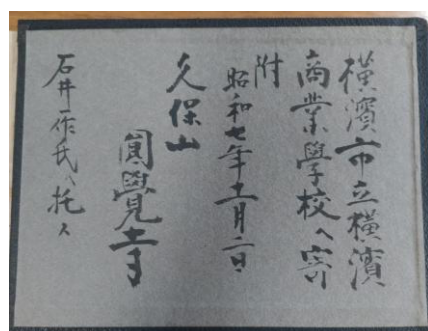
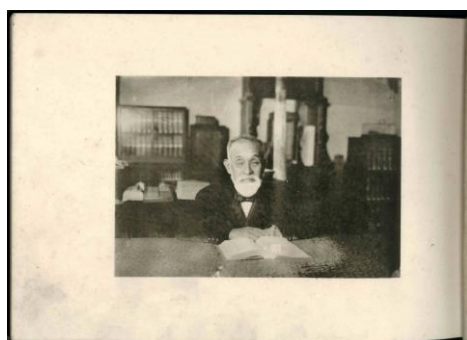
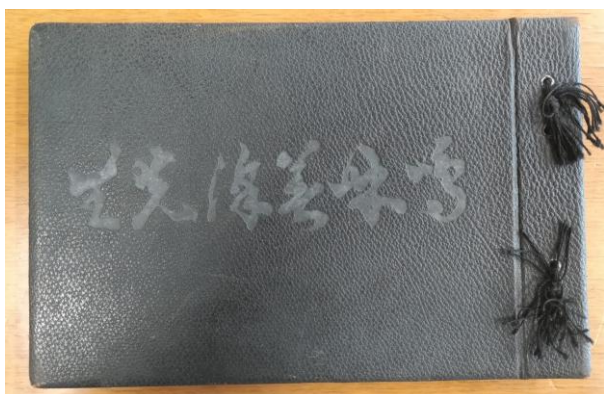
Y校アーカイブ vol. 36 「美澤先生」

美澤進先生は、Y校が創立された明治15年から、亡くられる大正12年9月までの約42年間にわたり、校長としてY校に尽くされました。

大正13年9月発行の『嗚呼美澤先生』は13cm×19cmの薄く小さなものです。美澤先生の写真と先生の筆による「正直」の文字、そして校歌の楽譜が挟まれ、先生の略歴や幼少期から亡くられるまでを24ページにわたって記した紙が綴じられています。



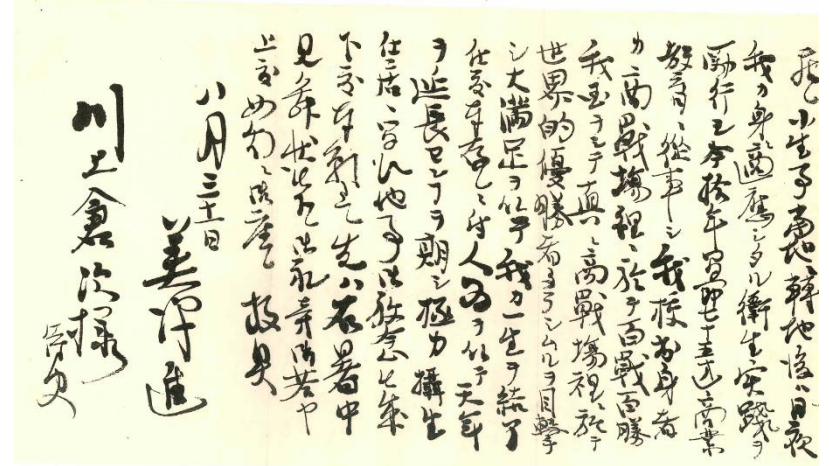
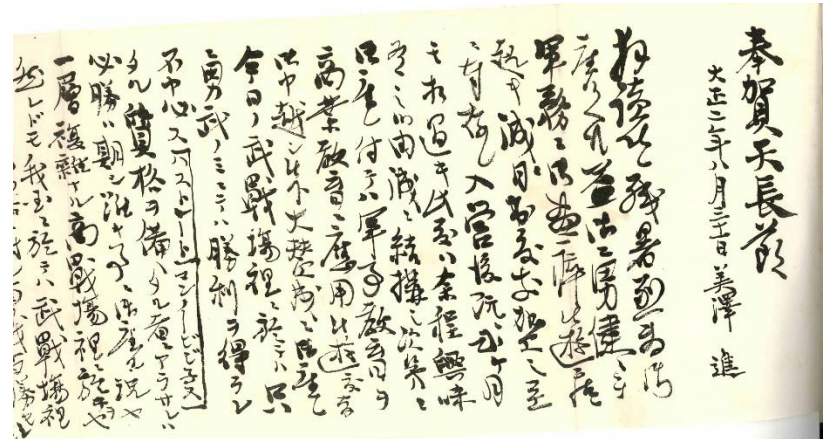
大正14年2月発行の『嗚呼美澤先生』は、美澤先生が眠る墓地のある久保山の円覚寺より、昭和7年に寄贈されました。縦18cm、横28cmの重厚な表紙をめくると、美澤先生の大規模な葬儀や納骨の儀の様子が写された45枚の写真が収められています。葬儀に参列した犬養毅元首相の姿なども見られます。



昭和12年1月に発行された『美澤先生』は全602ページで、上部の天といわれる部分には金が施されています。中には大正2年に教え子に向けて書かれた巻物のような手紙がありました。



長い手紙は中略いたしました。



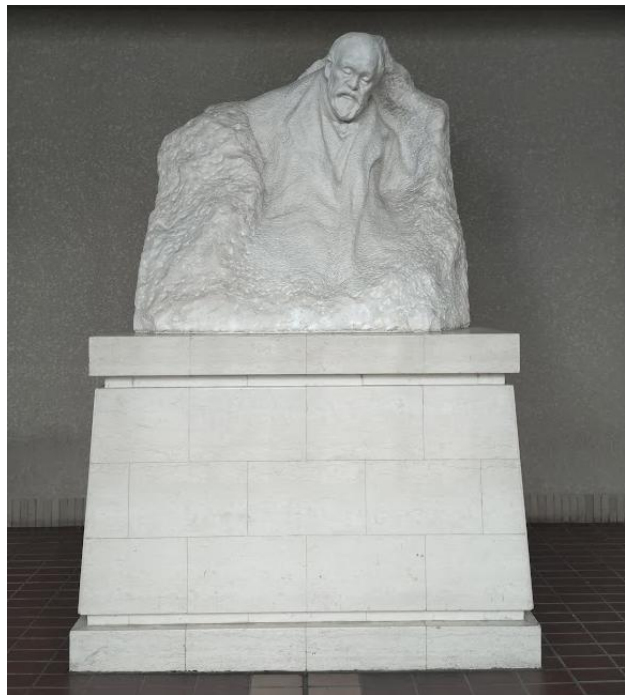
講堂の像は、卒業生の宮田喜代三さんの手によるものです。

大正3年の第26期卒業生で、昭和3年5月16日という日付がありました。

校長室にも上半身の像がありますが、こちらの制作者や作られた日にちなどは不明です。



校長室の美澤先生像



講堂の美澤先生像